

環境配慮検討書

四建第378号
平成17年9月21日

三重県環境システム推進会議 部会長 様

北勢県民局 四日市建設部長

三重県環境調整システム推進要綱第4条の規定に基づき提出します。

対象事業の名称	磯津地区海岸 国補海岸高潮対策工事
担当課名	北勢県民局 四日市建設部 事業推進室 整備グループ

1.事業の計画の名称、目的及び内容

(1)名称	磯津地区海岸 国補海岸高潮対策工事		
(2)目的	<p>磯津地区海岸では、海岸の侵食が著しく進んでおり、台風による異常波浪や浜の減少が原因となる越波等の被害の恐れが生じており、海岸保全施設の整備要望が強い箇所である。</p> <p>整備方法については、「防護」「環境」「利用」が調和した海岸の保全と海岸事業の効率性・透明性等を図ることを目的に平成 14 年度に策定された三重県海岸整備アクションプログラムにおける磯津地区海岸の位置付けを踏まえた検討を行った。</p> <p>三重県海岸整備アクションプログラムにおいて磯津地区海岸は、防護・環境・利用の現況、アンケートから自然環境の保全・復元も考えた整備を行う「環境維持海岸」に分類され、離岸堤+養浜が計画されおり、計画に基づいた整備を行う。</p> <p>また、既設堤防が老朽化しているため、堤防補強を行う。さらに地質調査の結果、磯津地区海岸の地質は液状化の恐れがあるため地盤改良工も併せて施工する。</p>		
(3)事業主体	北勢県民局 四日市建設部		
(4)計画内容	計画地の位置 位置図を添付すること	三重県 四日市市磯津町地内	
	建物・施設等の概要 (用途、規模、面積、 配置等) 配置図を添付すること	計画延長: L = 420.0m 堤防補強工延長: L = 409.0m 地盤改良工延長: L = 200.0m 離岸堤延長: L = 120m × 3基 = 360.0m 養浜工延長: L = 420.0m 天端幅 = 30.0m	
	用水の使用計画	なし	
	エネルギーの使用計画	なし	
	雨水、汚水の排水計画	雨水:なし 汚水:なし	
	道路・交通計画	・現場進入路は磯津地区海岸 北側に進入口を設置予定。	
	工期	ア)着工の予定時期 1)完工及び供用開始の 予定時期	・着工:平成17年度予定 ・完工:平成27年度予定 ・供用:平成27年度予定
(5)関連事業 計画	・磯津漁港海岸保全施設整備事業(四日市市役所施工)		
(6)その他	なし		

2.計画地の社会的条件の現況等

(1) 計画地の社会的条件の現況	交通の現況	磯津地区海岸の海岸堤防の一部は四日市市道として認定をされている。
	土地利用の現況	磯津地区海岸に隣接する地区は第2種住居地域である。
	水域利用の現況	共同漁業権 区画漁業権が設定されている。
	生活関連施設の現況	生活関連施設の立地状況 a. 学校施設：磯津保育園 b. 医療施設：中山医院 c. 文化施設：塩崎神社 d. その他：磯津緑地公園
(2) 関係法令等による地域の指定・規制状況	自然環境保全地域等の指定状況	自然環境保全地域(地区)、自然公園地域(区域)、鳥獣保護区の指定状況 a. 自然環境保全地域：指定なし b. 自然公園地域：指定なし c. 鳥獣保護区：鈴鹿川河口鳥獣保護区
	土地利用規制の現況	都市計画法、農業地域振興法、森林法等の規制状況 a. 都市計画法：規制あり(四日市市都市計画区域) b. 農業地域振興法：規制なし c. 森林法等：規制なし d. 砂防法：規制なし e. 地すべり等防止法：規制なし f. 急傾斜地災害防止法：規制なし g. 河川法：規制あり(河川区域) h. 海岸法：規制あり(海岸保全区域) i. 文化財保護法：規制なし

3.計画地の自然的条件の現況

(1)地形 ・地質	文献調査	文献名	平成16年度 磯津地区海岸 地質調査業務委託 (四日市建設部)		
	現地調査の有無	<input checked="" type="radio"/> 有	無 (実施日時 平成17年 1月)	聴取調査の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
	調査結果等	<p>地形: 磯津地区海岸は伊勢平野に含まれている。伊勢平野は低地、台地、丘陵の三単元に分類され、磯津地区海岸は鈴鹿川低地の伊勢湾海岸線に位置し、主に鈴鹿川によって形成された河成低地(楠三角州)からなっている。</p> <p>汀線変化は磯津地区海岸と磯津漁港海岸の間で北側では前進、南側では後退が進んでいることが航空写真の比較から確認されている。</p> <p>地質: 磯津地区海岸付近では沖積層の基底面はおよそ-25mを示し、起伏に富んだ形状を呈する。磯津地区海岸の表層部には砂・礫により構成される浜堤堆積物が分布し、磯津地区集落をはじめ四日市から鈴鹿にかけての低地部では、集落はこのような砂礫系堆積物(富田浜層)の上に分布する。</p> <p>また、磯津地区海岸の地層である富田浜層は土質調査時には液化するものと判定されている。</p>			
(2)水象	文献調査	文献名	なし		
	現地調査の有無	<input checked="" type="radio"/> 有	無 (実施日時 平成17年 1月)	聴取調査の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
	調査結果等 河川・湖沼	一級河川鈴鹿川に隣接する			
	海域	伊勢湾沿岸に位置する			
(3)気象 ・大気質 等	調査の方法	津地方気象台資料(観測所: 四日市特別地域気象観測所 H16) 平成16年度版三重県環境白書			
	調査結果	<p>計画地最寄り(四日市市)の観測データは次のとおり</p> <p>a. 平均気温: 15.8 °C</p> <p>b. 降水量: 2,167.5 mm/年</p> <p>c. 平均風速: 9.2m/s 北北西</p> <p>d. 大気質: SO₂(二酸化硫黄) 0.005ppm(年平均) NO₂(二酸化窒素) 0.016ppm(年平均) SPM(浮遊粒子状物質) 0.031mg/m³(年平均)</p> <p>e. 水質: 類型 B pH 8.3 DO 9.4mg/l COD 3.5mg/l 油分等 ND 全窒素 0.79mg/l 全燐 0.049 mg/l (四日市・鈴鹿地先海岸-甲 ST-4)</p>			

(4)生態系等	文献調査	文献名	<ul style="list-style-type: none"> • 四日市市の野生動物 • 四日市市の植生と植物相 (四日市市) • 三重県レッドリスト2005 (三重県環境森林部) 	
	現地調査の有無	有・無 (H17.8.5 現地調査)	聴取調査の有無	有・無
	調査結果等 植物	<p>植生の概要 : 以下草本植生及び一部矮低木林などが生育している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハマヒルガオ ・アメリカネナシカズラ ・タチスズシロソウ ・コウボウムギ ・ハマダイコン <p>貴重な植物個体 : 現地調査の結果、工事区域内にはレッドデータブック、リストに記載されている植物は発見されなかった。磯津地区周辺において三重県環境森林部レッドリストに記載された種で三重県レッドリスト2005に登録されている植物は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タチスズシロソウ (絶滅危惧ⅠA 三重) <p>貴重な植物群落 : 特になし</p>		
動物	<p>動物相の概要 : ・磯津海岸、隣接する吉崎海岸はシロチドリ、コアジサシの繁殖最適地となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴鹿川河口部に接する辺りはオカミミガイ、ハクセンシオマネキの生息に適した干潟となっている <p>貴重な動物 : 現地調査の結果、工事区域内ではレッドデータブック、リストに記載されている動物は発見されなかった。磯津地区周辺において三重県環境森林部レッドリストに記載された種で三重県レッドリスト2005に登録されている動物は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オカミミガイ (準絶滅危惧) ・ハクセンシオマネキ (絶滅危惧ⅠB) ・アカウミガメ (絶滅危惧) ・オオヨシキリ (準絶滅危惧) ・コアジサシ (絶滅危惧ⅠB) ・コクガン (絶滅危惧) ・シロチドリ (絶滅危惧ⅠB) ・スグロカモメ (絶滅危惧ⅠB) ・ハヤブサ (絶滅危惧ⅠA) ・ホウロクシギ (準絶滅危惧) ・ミサゴ (絶滅危惧ⅠB) 			

(5)自然 景観・ 文化財 等	文献調査	文献名	四日市市の土地分類 四日市市の植生と植物相 四日市市の野生動物 (四日市市)		
	現地調査の有無	有・無	(実施日時 平成17年 8月)	聴取調査の有無	有・無
	調査結果等 自然景観	自然景観の概要:事業計画区域は、鈴鹿川河口右岸側の海浜海岸であり、四日市市では砂浜が残る唯一の海岸である。計画地の背後地区は住居地区である。 貴重な自然景観:砂浜 鈴鹿川河口の干潟			
	文化財、 史跡、 名勝等	史跡・名勝・天然記念物:コクガン(国指定天然記念物) 埋蔵文化財包蔵地:特になし			
	野外レクリエーション他	特になし			
(6)その他 自然 災害等	昭和34年の伊勢湾台風により、甚大な損害を受けた。 四日市市内における被害状況 <ul style="list-style-type: none"> ・死者 113人 ・全壊住家(流失住家) 1,209戸 ・住家床上浸水 15,125戸 ・負傷者 不明 人 ・半壊住家 2,486戸 ・住家床下浸水 3,064戸 				

4 事業計画の検討内容

	事業計画案	比較検討案
(1)計画の概要	離岸堤 + 養浜 + 護岸補強	離岸堤 + 護岸補強
(2)環境評価(* 左欄に を相対評価で記入し、右欄に評価の理由を記入) 循環を基調とした持続的発展が可能な社会の構築 人と自然がともにある環境の保全 安らぎと潤いのある快適な環境の創造		
-1 地球温暖化防止	比較案に比べ離岸堤の規模が小さく被覆石用石材の使用が少なく済み、石切り場の拡大が押さえられる。	離岸堤の規模が大きくなるため、被覆石用石材の使用が多くなり石切り場の拡大が懸念される。
-2 廃棄物対策	既設堤防を撤去しないため発生廃棄物の減量ができる。 堤防前面にある既設消波ブロックは、離岸堤の材料として流用する。	既設堤防を撤去しないため発生廃棄物の減量ができる。 堤防前面にある既設消波ブロックは、離岸堤の材料として流用する。
-3 生活環境の保全	背後住宅に影響を与えないよう低振動・低騒音型の機械による施工を計画する。	背後住宅に影響を与えないよう低振動・低騒音型の機械による施工を計画する。
-4 その他重点項目	特になし	特になし
-1 野生生物等の生育空間の確保	養浜工により砂浜、干潟に生息する植物、生物の生息区域が確保される。	護岸補強、海上施工のみであるため現況に変化は生じない。
-2 希少な野生生物の保護	特になし	特になし
-3 地形、地質等の改変の抑止	養浜工にあたっては現況砂質に考慮した材料の使用を検討する	養浜工が無いため地形の改変は少ない。
-4 その他重点項目	特になし	特になし
-1 緑化、周辺景観との調和	養浜工により侵食以前の景観の回復が図れる。	計画案に比べて離岸堤規模が大きくなり沖合の景観が悪化する
-2 親水等、ふれあい空間づくり	養浜工により砂浜の回復が図れ、海辺のふれあい空間の確保が可能となる	養浜工が無いためふれあい空間の確保は図れない
-3 その他重点項目	特になし	特になし
上記以外の特記事項	特になし	特になし

5.事業計画案の環境配慮に係る評価

長所	<ul style="list-style-type: none"> ● 離岸堤の規模が小さく済み海域の景観に与える影響が小さい。 ● 養浜工により干潟、海浜植物、動物の生息場所が回復できる。 ● 養浜工により砂浜の面積が増え、レクリエーションや親水活動の場が確保できる。
短所	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在の砂浜の上に養浜工を行うため現況生息植物、動物の保護に注意が必要である。 ● 養浜工では事業地周辺以外の材料を用いるため現在の生態系への影響が懸念される。 ● 比較案に比べ工種が多くなり、工期も長くなるため周辺生活環境への影響が大きくなる。
会議で調整を要する事柄	特になし